

なかやま まさこ

株式会社キタック 代表取締役社長 中山 正子 氏

建設コンサルタント企業として 安全・安心なまちづくりに貢献する



PROFILE

1969年生まれ、新潟市出身。玉川大学文学部芸術学科を卒業後、新潟に帰郷。デザイン業に従事した後、2006年 キタック入社。CGソリューションセンター長を皮切りに、2011年 総務部長、2015年 専務取締役などを歴任し、2017年 代表取締役社長に就任。新潟商工会議所では常議員、建設・不動産業部会 副部会長、新潟活性化委員会 委員を務める。

●その他、主な役職

新潟大学産学連携協力会 理事、新潟経済同友会 副代表幹事、一般社団法人新潟経営者協会 参与、一般社団法人斜面防災対策技術協会 理事 他多数

2023年に創業50周年を迎えたキタックは、地質調査、土木設計、環境調査など、優れた技術力で社会インフラの整備を担う総合建設コンサルタント企業。創業者である父の思いを受け継ぎながら、未来に向けた業務改革と人材育成に挑む中山社長に、お話を伺いました。



株式会社キタック

〒950-0965
新潟市中央区新光明10番地2
TEL : 025-281-1111
<https://kitac.co.jp/>



社員研修には私も毎回参加するようにしています。社長就任後からの7年で社員たちの考えを聞く機会が増え、若い世代の成長を感じています

一気通貫できる総合力を強みに 社会のニーズに幅広く対応

キタックは1973年の創業以来、地質調査、土木設計を核に幅広い事業を展開。現在は、建設・防災・維持管理・環境の4つを重点テーマとする総合建設コンサルタント企業として、さまざまなプロジェクトを手掛けている。「地質調査と土木設計の両方を行えることと自社で試験施設を持っていることが当社の強みです。建設の前段階まで社内で一気通貫できるコンサルタント会社は、日本海側では珍しいと思います」と中山社長。また、近年増加している自然災害に対しては、発現場にいち早く駆けつけ、復旧に向けて調査から設計まで各部門が連携して対応。防災分野の技術開発も含め、「防災のキタック」と呼ばれるほど高い評価を得ている。

社内の業務改革・整備を促進。 次世代を担う社員教育に注力

デザイン業を経てキタックに入社した中山社長は、2011年に総務部長に就任してから社内業務の効率化に乗り出す。「紙ベースだった社内環境から段階的にIT化を進め、3年後に基幹システムを入れ替えました。また人事評価制度も改定するなど、さまざまな取り組みを社員が認めてくれたので、社長職を受け継いだときも応援してもらえたのだと思います」。

そして社長就任後に着手したのが「あすかプロジェクト」だ。「課長クラスの社員を集め、2050年にはどんな会社でありたいかを議論し、それを基に3カ年の中期経営目標を作りました」。さら



西蒲区角田浜三叉路にある、新潟市初の環状交差点（ラウンドアバウト）を設計。信号機がないので停電時でも機能不全に陥らない。

に社員教育にも力を入れ、「経営幹部養成塾」や「未来会議」などを実施。こうした研修を通して若手社員が実力を付け、役職の世代交代も図られるなど大きな成果が出ているという。

作業の効率化を図るため AI技術の開発に取り組む

新潟商工会議所では建設・不動産業部会の副部会長、新潟活性化委員会の委員を務める中山社長。「企業の大小に関わらず、他業種が集まっているのが商工会議所の良いところ。普段は接点のない業種の方たちにもお会いできる機会になるので学びがあって面白いと思います」と話す。

「今は担い手不足の問題があるので、作業をいかに効率化するかが課題。頭で考えるべき業務は人が、誰もができる作業はAIで自動化できるように、AIを開発する会社とタイアップし、同業他社のためにもシステムの商品化を考えています。また、今年からwebやデザイン業務を行うCGソリューションセンターが営業部門に入り、こちらもがんばっています」。本業以外にも「知足美術館」や「ケアハウス知足荘」の運営など、地域貢献に取り組む同社。地域に根ざした企業として、安全・安心で豊かなまちづくりに貢献していく。



災害に備えるための洪水氾濫解析の事例。豪雨の発生から氾濫・洪水に至るまで時系列でシミュレーションを行い、防災・減災対策に活用。



本社に併設する知足美術館。「身の丈に合った社会貢献を行うのが企業の責任」という理念のもと、地域の人に喜ばれる美術館を目指している。